



第170号
令和5年10月30日
能代市教育委員会
学校教育課
創刊
昭和42年10月10日
題字 元能代市教育長
鎌田 宏

随想



「つながり」から

得るもの

第四小学校 教頭

武田 真紀夫

教頭として大館市の比内地区に赴任したときのことである。大館地区では小中の連携が進められており、私が赴任した比内地区では1中学校3小学校の4校での連携が行われていた。授業の交流はもとより、三つの部門に分かれて各校の取組について情報を交換したり、共同して事業を行ったりと、旧比内町という地域で一つの中学校に進学するということで連携がよい方向にあったと感じている。

比内地区の教職員の交流の場も大切にされ、会食を通して親交を図ることもでき皆顔を知っているという関係を作ることでもできていた。教頭同士のつながりは強く、互いに助け合える関係であれたのは先輩教頭のおかげであった。あるとき、その交流の場で一人の教頭先生からある本を紹介された。おすすめの本、愛読書であるというその本の名前は「置かれた場所で咲きなさい」。著者はノートルダム清心学園の理事長だった渡辺和子さん。



実際にその本を手にして読むことになったのは数年後であるが、その本の名前は私の中に刻まれ忘れることはなかったのである。著者のように自分自身が変わることでできたかどうかは分からないが、赴任した学校、置かれた場所、教師として自分らしく、自分のできることを精一杯やり続けるための、私にとっての教科書となった。

スクールニュース

応援活動で、集団力を高める

東雲中学校

教頭 小林 由美子

本校では、今年度も集団力を高める手立ての一つとして、応援活動に力を入れている。

全校応援練習は、その意義を一人一人が理解して臨めるように、応援練習五箇条の確認から始まる。そして団長を筆頭にプライドをもった幹部達のパフォーマンスに導かれ、体育館に響き渡る応援練習が進められる。新しく仲間入りした1年生も、2、3年生から習い次第に大きな声を出せるようになった。

この練習は各学級で組織されている応援団によって朝や帰りの会でも日常的に行われていく。

こうして全校生徒が一丸となった応援は激励会等で披露され、参観者からたくさんの賛辞をいただいた。「校歌3番!」の掛け声で全力校歌を歌う姿は、本校の自慢である!

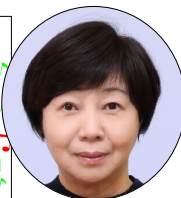
輝きの一場面



第22回二中若運行

魅せろ! 染まれ!

未来につなげる、我らの灯火
令和5年8月2日 能代第二中学校



淳城西小学校
教諭 五代儀 美智子



「人皆に美しき種子あり」私の好きな言葉です。毎年一人一人の持っている力をどのくらい開花させられるだろうか、ワクワクしながら

ら過ごしてきました。
特に1年生を担当する時には、毎日一粒一粒、種を蒔き育てるような気持ちでいます。入学時にはほとんどの児童が初対面。不安な気持ちでスタートしますが、お互いの好きなものを知りたくさん遊ぶことで、どんどん仲良くなっていけます。朝の準備や生活の仕方、聞き方や話し方等大事なことは絵カードで示し、鉛筆の持ち方やいくつといくつ、ドレミ体操等は歌遊び風にして楽しく学びます。平仮名を習得したころに、

グループでの話し合い活動を取り入れます。自分で考えて工夫する活動は意欲も高まり、リーダー性や主体性を育む良い機会になります。そして、「いいね」「すごいね」などの温かな言葉で価値付けを図ります。皆で目標達成に向けて取り組む活動は団結力を育みます。「笑顔」にこころハート」はクラスの合言葉。目標達成時には「ここにこ玉」を瓶に貯めていき、一杯になったら褒美タイム。タブレットのドリル学習やカードのシール、絵日記等、自分のがん

我が校の実践

連携を強化した
防災への取組

浅内小学校
教諭 嶋田 康弘

今年度、本校は能代南中学校と共に「地域連携安全・安心推進事業」の指定を受けています（詳しくは「ふいご」362号に載せていただきました）。全職員が一丸となって取り組んでいる防災教育について紹介します。

1 クマ対策講習 7月

秋田県庁の「出前講座」を活用した取組です。クマの生態や習性を知り、出会わないようにすることや万が一出会ってしまった場合の行動の仕方について学びました。

2 水上安全講習（7月）

県赤十字社の講師を依頼し、緊急災害時や衣服を着たままで水中に落ちた時などに、どう対応し、どのように行動するかなどを体験的に学びました。泳げない児童がいる低学年でも実施しました。

3 引き渡し訓練（10月）

今年度から、能代南中学校と同日の訓練とすることで、地域・家庭との連携を確認することができました。

★実践を通して★

特にクマ対策講習や浅内沼における竜巻を想定した引き渡し訓練（本校佐藤校長先生の子ども時代の体験を踏まえた設定）等、地域の課題に応じた取組をしていくことが大切だと感じています。また、地域住民や関係機関との連携を強めていくことが、一層の活動の充実につながり、命を守るための知恵と行動力を身に付けることになると思いました。



今後の課題として、より実践的な防災訓練の実施のために、危機管理マニュアルを常に見直ししていくことの大切さを学びました。浅内小学校の子どもたちの安心・安全のため、全職員が一丸となって取り組んでいきます。

編集後記



ばりを可視化することで達成感も生まれ、ププスの連鎖が生まれます。互いに共感し合えることや、良さを認め合えること、ミスをしても「大丈夫」と言い合える関係は安心して気持ちよく過ごせる学級づくりの基盤にもなっています。

教職フストイヤーも半年が過ぎましたが、教室にどんな花が咲き誇っているのか、子どもたちの成長が楽しみです。そして、一緒に感動を共有して、笑顔溢れる時間を過ごしていきたいと思っています。

8月下旬に市内の企業情報を掲載する冊子「のしろお仕事BOOK」が発行されました。巻頭特集には、二ツ井中学校2年生が市内企業十社を訪問・取材した記事が取り上げられました。
また、10月下旬には、秋田魁新報社主催の「地域活性化」中学生選手権大会が、能代第二中学校と二ツ井中学校が地元企業から聞き取った情報を基に地域活性化に向けたアイデアを披露しました。
地域の人やものに触れる活動を通して、ふるさと能代の魅力を感じることができたのではないのでしょうか。
11月20日には、「未来を創る能代」子ふるさと会議が開かれ、能代市も参加します。ふるさとを未来や課題について考え、ふるさとを代を担う自覚を高めるきっかけになればと思います。
お忙しい中、玉稿をお寄せくださった方々に心から感謝申し上げます。
(D)